



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2015/7/13(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 170

第68回 北海道高等学校バスケットボール選手権大会 (女子)

札幌山の手高校3年連続31度目の優勝!! 海星学院高校初の全国切符!

指導者育成専門委員
永野 博子

今大会は、2月に行われた全道新人大会のベスト4に残った札幌山の手高校、海星学院高校、札幌東商業高校の常連校ととわの森三愛高校が加わり白熱した決勝リーグになった。

Aブロックは、山の手が順当に勝ち進み、Bブロックは、帯広の第一代表の帯広大谷を札東商が圧勝し難なく代表へ、Cブロックは、北星女子と帯南商戦を楽しみにしていたが北星の持ち味を出すことなく帯南商に完敗し、代表戦はとわの森三愛と帯南商になり、とわの森のゲーム運びの巧さに帯南商は代表を逃した。Dブロックは、激戦ブロックで、旭川藤と海星戦は2点差で海星に軍配が上がり、代表戦は創成と当たったが相手を一蹴し代表戦へ進出した。

以下決勝リーグの感想を一言

山の手は、決勝リーグでも激しいディフェンスとガード・フォワード・センター陣の連携プレーによりまんべんなく得点し各相手チームをダブルスコア以上の大差で破り、危なげなく三連覇を果たした。とくに海星戦では、ポイントゲッターの⑦をフェイスガードで守り、ダイヤモンド1の変則ディフェンスで相手を封じ、前半で勝負ありの感が強かった。

準優勝の海星は、この所常に上位を確保してきたチームで、創部13年目で初の全国切符をつかんだ。また、3度目の決勝リーグ進出でこの日の初戦、2年前に第二代表を争い一点差で敗れた東商に、エース⑦を中心に④⑧の頑張りで雪辱、見事代表権を獲得した。

3位のとわの森は、54回大会以来久々のベスト4入り、コーチも女性のコーチに変わり、個々に能力のある選手が集まりそつのないゲーム振りを発揮していた。

同じく3位の東商は、4強入りのチームとしてここ数年安定した力を発揮してきた。個々にはずば抜けたプレーヤーがいないが、チーム力とコーチの手腕でこのポジションを維持していると思う。公立高校の代表として頑張っているチームに陰ながら応援したい。

私も、過去に公立高校を指導して11年連続3位以内うち(全国大会2回)の経験をしており、公立高校でのチーム作りの難しさは誰よりも実感している一人でもある。

前回にも書いたが、ゲームメイクのガードの育成は、上位チームにおいてはできていたように思うが、長身者に対してのチームディフェンスに一考を要す感が強かった。シューターを育てることも必要不可欠。最終的には、体力、脚力、そして、勝負に勝ちたいという気持ちの強いチームが勝ちあがってきたように思う。

実は、タクティクスを担当して5年目になりますが、女子においては65回大会で創成

高校が優勝した以外は、20数年間山の手高校の独壇場になっている現状です。同じ高校生のチームです。この辺でひと泡噴かせるようなチーム作りに大いに期待したい一人です。

結果とベスト5は以下の通りです。

山の手	100	—	55	海星	海星	75	—	49	とわの森
山の手	98	—	34	とわの森	海星	69	—	45	東商
山の手	97	—	53	東商	とわの森	66	—	47	東商

優勝	札幌山の手高校	3勝	0敗
準優勝	海星学院高校	2勝	1敗
3位	とわの森三愛高校	1勝	2敗
3位	札幌東商業高校	0勝	3敗

以上の結果、札幌山の手高校と海星学院高校は京都で行われる全国大会の切符を手にした。

(ベスト5)

久米	捺美	(山の手)	3年
池田	玲奈	(山の手)	2年
長岡	侑里	(海星)	3年
駒谷	宇唯	(とわの森)	3年
木田	舞歩	(東商)	3年

受賞者の皆さんおめでとう。

最後に、4日間の大会期間中、小樽地区協会、各高校の先生方、生徒の皆さん、当番校の小樽工業高校の皆さんには、大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。